

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加茂農林高等学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和 3年 6月 （書面開催）
- 3 参加者 委 員 山田 和浩 岐阜県農業大学校長（会長）
生駒 一成 岐阜県指導農業士（副会長）
酒向 光世 医療法人管理職
長谷川洋昭 ボランティア団体支部局長
渡辺 祥二 農業生産法人代表
武田 由美 美濃加茂市教育委員
井戸 肇 同窓会
中島 清貴 P T A会長

学 校 側	大塚 浩昭	校長
	松岡 千年	教頭
	岩井のり子	事務部長
	斉藤 寧子	教諭（教務主任）
	村井 陽一	教諭（生徒指導主事）
	澤野 美彦	教諭（進路指導主事）
	八束 功子	教諭（農場長）

4 会議の概要

(1) 学校運営の方針

- ・全委員より「今年度の本校の学校運営基本方針」について承認が得られた。
- ・生徒たちが、生きがいと誇りをもって生きることができるよう、学校が真剣になって取り組んでいることが伺えました。
- ・コロナ禍において、難しい判断もあると思いますが、加茂農林高校生でよかったと思える生徒を多くしてほしいと思います。
- ・生徒一人一人が個性を伸ばしつつ、将来に向けた人材育成、特に特色ある高校として共感できました。

(2) 教育指導の重点及び学校運営計画について

- ・全委員より「教育指導の重点及び学校運営計画」について承認が得られた。
- ・コロナ禍で大変な時ですが、対面対話で接する機会を確保してください。
- ・達成基準も明示してあり、取り組みが可視化できると思います。内容も素晴らしいと思います。

(3) スクールポリシー策定にあたって、どのような高等学校を目指すのか

- ・加茂農林高校では、学校目標として2つの人間性を育てる目標の他に、「産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる人材を育てる」を設定されており、農林高校として農林業に関するスペシャリストを育成されようとしていると理解しています。
- ・そうであるなら、学校の目指す姿やスクールポリシーとしても、その考え方を前面に出されればよいと思います。

- ・その上で、農林業のスペシャリストを育成するために、どのようなカリキュラムとすべきか、という点において現行のカリキュラムが十分であるか否かを検討し、不十分であれば見直しが必要かと思われまます。
- ・なおスペシャリストを育成する上において、農林高校で重要となるのは、農林業の職業観をより一層醸成していくことであると思います。そのためには、生徒が農林業現場の状況を十分に理解できる場を「学校と地域の連携」でより多く提供すべきと思います。
- ・現在どこの高校も地域と密接・密着している。そうしようとしてみえるが、農業高校はとりわけ有利な条件がある。これを維持・伸長させてほしい。
- ・Policy は欲張りすぎない。基準となるものをつくってにおいて、あとはその上に花を咲かせるように導いてほしい。
- ・専門を学べる学校なので、実習など社会課題ともリンクさせた授業ができる学校になればと思います。
- ・社会人としての常識を身に付け農林高としての専門知識を学び、社会で生き抜く力をつける学校としたい。
- ・普通高校とは違った面での魅力があり、それが地域産業との連携などに結び付けられる活動があるといいと思います。すでに小学校や幼稚園、さらに地域の方への農産物販売やコラボ商品もありますが、在学中の経験を生かし、生徒が卒業後に自己アピールできる経験の場が多く設けられていることも大切だと思います。農業や製造・販売など、起業に卒業後につながる学びがあると、さらに魅力が増すのではと思います。

(4) スクールポリシー策定にあたっての、その他の意見

- ・スクールポリシーは、どのような枠組みの中で作成されるのか（例えば目標数値は設定されるのか、学校全体か学科ごとか、必要な予算は確保されるのかなど）や、「学校と地域の連携」の現状などを、次回の会議では教えていただけますと、より具体的な意見交換ができると思います。
- ・生徒たちの希望を実現できるよう協力していきたいと思います。
- ・「命の尊重」「生きる力」、現在のコロナ禍で、ワクチン接種が進んだとしても厳しい状況が考えられます。動物も植物も私たちも、コロナだけでなくあらゆる病気と闘い続ける時代が続くこととなります。これに対応することが大切であると思います。
- ・「今時」と言われない生徒を育ててほしい。

(5) その他

- ・今年度第2回は、ぜひ対面でやってほしい。これで4回連続で紙面開催です。
- ・感染症はコロナだけでなく食中毒・ノロウイルス・インフルエンザ等が多くあります。感染を意識し、感染を意識し、強い精神力を鍛える、いじめのない学校であってほしいと思います。
- ・達成率、学校評価の数値、生徒の満足度等、数値で客観的に評価が出来るようにしていきたい。

5 会議のまとめ

令和3年度の第1回学校運営協議会については、コロナウイルス感染防止の観点から、書面開催とした。昨年度も会議のすべてを紙面開催であったため、年度当初の重点目標や具体的方策をしつかりと説明できなかつたのではないかと危惧していた。しかし、書面承認書において、当校の取組について、励ましや応援の気持ちのこもった多くの指摘など、学校に対して多くの前向きな意見を寄せていただくことができました。今後も学校運営協議会委員の皆様はもとより、地域住民の声に真摯に耳をかたむけ、頂いた意見をもとに学校改善に努めていきたい。

なお、第2回学校運営協議会は9月に予定している。対面で実施してほしいとの意見もあり、コロナウイルス感染症の状況をみて実施していく予定である。